

1月15日(金曜日)

ドル/円

米小売売上高弱く、ドル/円上値の重さ増す

14日(木)の主な推移

NYダウ平均

10710.55ドル
(+29.78ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

3.7460%
(-0.0448%)

NY原油先物

79.39ドル
(-0.26ドル)

チャート: 30分足 14日(木)朝7時 ~ 15日(金)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

①

豪州12月雇用統計が予想よりもかなり強い内容だったことを受けて、豪ドル/円主導で円売りが活発化。中国・上海総合株価指数が上昇し、12日の中国人民銀行による預金準備率引き上げの影響が一段落した感が強まったことで、リスクを積極的に取る動きが強まったことも円売りを後押しし、ドル/円は夕方に92.04円まで上昇した。

②

米12月の小売売上高が前月比-0.3%と、市場予想の+0.5%を大きく下回り、発表後のドル/円は90.82円まで下落した。ただ、91円割れ水準ではやや底堅く推移した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本政府による市場介入への警戒感
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 90.15-91.85円

本日のドル/円は、日中から夕方にかけては90.80-91.40円程度のレンジで上値の重い展開が予想され、米国市場では日本時間今夜発表される複数の米国経済指標がカギとなりそうだ。8日に発表された米国12月雇用統計に続き、米国12月の小売売上高も予想よりもかなり弱い内容となったことを受け、米国の政策金利引き上げ観測が更に後退しており、目先のドル/円は92円程度が天井で、上値の重い状況が続きやすい。ただ、米金利先物市場では9月のFOMC(米連邦公開市場委員会)で政策金利が0.5%である確率を14日末時点で35.7%織り込み、依然として最有力視されており、ドルを下支えしている。

米雇用統計、小売売上高という最も重要な指標がいずれも弱い内容となったことで、今夜発表される米経済指標が強い内容になってもドルの強い上昇は期待しづらく、むしろ弱い内容となった場合にドル/円の90円割れを試す機運が強まる可能性があるだろう。

本日及び明朝の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/15(金)	21:00	○	(米)J.P.モルガン・チェース決算発表	—	—
	22:30	◎	(米)12月消費者物価指数[前月比]	+0.4%	+0.2%
	22:30	○	(米)1月ニューヨーク連銀製造業景気指数	2.55	12.00
	23:15	○	(米)12月鉱工業生産[前月比]	+0.8%	+0.6%
	23:55	○	(米)1月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	72.5	74.0

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com